

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 8日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22310150

研究課題名（和文） 戦後日本における中国研究と中国認識

研究課題名（英文） Chinese Studies and the Perception on China in post-World War II Japan

### 研究代表者

代田 智明（SHIROTA TOMOHARU）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：60154382

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトは、第二次世界大戦後の日本でどのように中国が認識されたのかを、中国研究の動態を通じて考察する。新たな日中関係を構築するため、本プロジェクトは日本の対中認識の知的インフラの自己点検を目指した。具体的には参加者がそれぞれの分野における戦後の対中認識を分析した。同時に戦後の中国研究の第1世代の人文系の研究者に聞き取り調査を行った。最終年度には本プロジェクトの先行プロジェクトである台湾大学の石之瑜氏を招聘して国際ワークショップを開催した。

研究成果の概要（英文）：The project aimed to explore how Japan cultivated the perception on China through the studies on China in the post-World War period. It is imperative to understand the Japanese perception on China in order to develop a new stage of Japan-China relations. The participants analyzed the perception on China from their own discipline. The project also conducted interviews with the first generation of post-war scholars on Chinese studies in the field of humanities. In the year of 2012, an international workshop was held, with Prof. Shih Chih-yu from Taiwan University as the guest speaker.

### 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2011年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2012年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
年度			
年度			
総計	14,000,000	4,200,000	18,200,000

研究分野：地域文化研究、中国研究

科研費の分科・細目：地域研究（東アジア）

キーワード：中国、戦後日本、中国研究、中国認識、日中関係

#### 1. 研究開始当初の背景

(1)1978年の改革・開放政策の始動とともに中国社会は大きく変化し、1990年代に高度経済成長を始め、21世紀に入ってからは、国際経済のなかで重要性を高めた。これに対して、日本社会はバブル崩壊後の「失われた10年」を経て、かつての高度経済成長を支えた日本モデルのきしむ現状に当惑していた。

日中関係は1972年の国交回復以後の基調であった「日中友好」では語りつくせない時代へと突入している。中国でも日本人を「軍国主義者」と「良き人民」に分けて考えるというかつての二分法が後退し、かわって日本社会を総体として理解するような傾向が生まれた。

この間、2008年の「餃子事件」に見られる

ように、日中の相互依存関係は進んだ。同時に東アジアの主要都市では、ほぼリアルタイムで共通の情報を共有する都市中間層が誕生し、日本のアニメやテレビドラマ、韓流のドラマは国境を越えて伝播した。

(2) こうした状況のなかで、東アジアの一員として日本が他国と対等の関係を保つためには、自身の中国認識がどのようなものか改めて点検する作業が必要なことに気づかされる。自身の中国認識を包括的に知ることは、日本の対中政策、さらには対アジア政策の立案を考える際、重要な知的インフラとなる。

中国研究において中国の日本観はしばしば研究のテーマとなったが、日本の中国観そのものについては、もっぱら世論調査が利用され、そこから一步踏み込んで、日本がどのように中国社会に接近し、中国を認識したのか、詳細的かつ包括的な研究は思いの外行われていなかった。

(3) 以上を踏まえて、本プロジェクトでは戦後日本における中国研究を通して、日本の中国認識に迫り、その変化を追っていくことを目指した。

## 2. 研究の目的

(1) 本プロジェクトは、第二次世界大戦後の日本でどのように中国が認識されたのかを考察する。中国研究を通じて日本の対中認識をさぐることは、日本社会が内包する問題点を検討することにもつながる。中国研究という「鏡」によって、自己を再照射することは、閉塞感のある日本の状況に対して、新たな可能性を示唆することにもつながる。

2009年に新中国・中華人民共和国は還暦を迎えた。文化大革命をリアルタイムで見た世代が還暦を迎え、戦後の中国研究の第1世代が続々と物故者の列に入っている。直接的な関係者との討論を交えつつ日本の対中認識を確認する時間は限られている。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究では基礎作業として、参加者の専門分野における、戦後日本における中国研究の動態をまず明らかにした。1年目は戦後直後から1970年代まで、2年目は1980年代から現在までを扱った。そのうえで、影響力を持つ（持った）個人に焦点をあてるなどして、研究そのものの特徴、中国との接近の仕方などを考察した。また、同時に、中国研究者を輩出した団体や機関について、その教育方法や人材養成方法にも注目した。

(2) 本プロジェクトの先行プロジェクトは2つある。

1つは『20世紀における日本の中国研究と

中国認識』の共同プロジェクト（日中歴史研究センター助成：代表・小島晋治）である。この共同プロジェクトは戦前、中国に関わった団体や個人の関係者にインタビューし、3年間の共同研究で戦前の日本における中国研究の状況はかなりの程度まであきらかになった（小島晋治・大里浩秋・並木頼寿編『20世紀の中国研究：その遺産をどう生かすか』研文出版、2001年）。

もう1つは、全世界の中国研究の動態を分析しようとする石之瑜（台湾大学政治学研究所）の「世界における中国研究の知識社会学的研究」プロジェクトである。同プロジェクトは諸外国の中国研究について基礎データを収集し、中国がどのように外部世界から認識されたのかを国際比較しようとした。中国認識の検討が重要性であることは、国際的にも共有されている。

(3) これら2つのプロジェクトは、日本の中国認識とともに世論調査よりも深いレベルで、日本がどのように中国社会に接近し、中国社会を認識しようとしたのかを、中国研究それ自体を手がかりにして分析しようとするものであった。

小島・並木・大里プロジェクトは20世紀後半、すなわち戦後の日本における対中国認識に関する言及は少なかった。

一方、石プロジェクトは中国語学習歴や研究者養成ルートなど制度や方法論について統一的な質問項目が設定され、日本の当時の時代状況を考察しながらの分析よりも、比較検討した上での各国の特徴抽出が主になる。

(4) 本プロジェクトはとりわけ、小島・並木・大里プロジェクトを継承・発展させることをつよく意識した。

本研究は時代設定を戦後期全般とし、また中国研究の分野も歴史・言語・文化芸術・思想哲学・社会・経済・政治とより広い分野をとりあげた。

また、石プロジェクトとの接合性から、同プロジェクトであまりとりあげられなかった人文科学系の研究者へのアプローチをこころがけた。

## 4. 研究成果

(1) 本プロジェクトでは、当初の予定どおり、各人が自身の専門分野において、戦後に日本における中国研究の動態について考察を勧めた。本プロジェクトの参加者は歴史・言語・文化芸術・思想哲学・社会・政治・経済の5班に分かれた。なお、参加者のうち、岩月はベトナムにおける中国研究の動向を紹介し、本プロジェクトメンバー内で比較の視角を提供した。

(2)聞き取り調査については以下のように実施した。

平成 22 年度は、戦後の第一世代にあたる、竹田晃・田仲一成・戸川芳郎の三氏へのインタビューを行った。

平成 23 年度は石プロジェクトと同様に比較の視点を心がけ、ラマルル・クリスティーン（フランス社会科学高等研究院）、林少陽（香港城市大学）の両氏を招聘し、当該地域における中国研究の特徴と、海外の研究者から見た日本の中国研究の特徴について聞き取り調査を行った。

これらをふまえて平成 24 年度はプロジェクトのまとめとして石之瑜（台湾大学）と邵軒磊（台湾師範大学）の両氏を招聘してワークショップを開催した。討論者には、馬場公彦氏をむかえた。同氏は『戦後日本人の中国像—日本敗戦から文化大革命・日中復交まで』（新曜社、2010 年）で大平正芳賞を受賞している。

(3)3 年間のプロジェクト期間内に研究代表および研究分担者が発表した業績の総計は、雑誌論文が 44 件（うち査読有は 12 件）、学会発表が 42 件（うち招待講演は 11 件）、図書が 12 件にのぼる。このように業績が多数にのぼるため、「5. 主な発表論文等」には、本プロジェクトとの関連性がとくにつよいもののみしぼって掲載した。

また、3 年間の研究成果を踏まえて、平成 25 年度に学術振興会の出版助成を申請できるように、参加者メンバーは原稿の作成・編集作業をはじめた。

なお、谷垣と林少陽は石氏と香港城市大学の陳学然氏と香港における中国認識プロジェクトを、石之瑜氏とともに平成 25 年度から始めることとなった。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

- ① 代田智明、書評：長堀祐造『魯迅とトロツキー——中国における「文学と革命」』、中国研究月報、査読無、66 巻 8 号、2012、40-44
- ② 石井剛、知識生産・主体性・批評空間—汪暉『現代中国思想的興起』日文簡本“訳者解説”—、開放時代、査読有、232 号、2011、137-148
- ③ 若林正文、麵麩と愛情のディレンマ—『総統直選』が刻む台湾政治の足跡【一九九六—二〇一二】、ワセダアジアレビュー、査読無、11 号、2011、11-16

- ④ 村田雄二郎、日本の対華二カ条要求と五四運動、岩波講座 東アジア近現代通史 戦争と改造の時代——1910 年代（第 3 巻）、岩波書店、2011、324-343
- ⑤ 谷垣真理子、返還後の香港における区議会選挙、ODYSSEUS、査読無、15 号、2011、47-72
- ⑥ 代田智明、中国モダニティと思想改造—丸川哲史『魯迅と毛沢東 中国革命とモダニティ』（文社）を书评する、中国研究月報、査読無、64 巻 10 号、27-33

〔学会発表〕（計 7 件）

- ① Iwatsuki Jun'ichi（岩月純一）、Modernities in Japanese and Vietnamese: Focusing on Newly-made Chinese-based Vocabulary, Japan and Southeast Asia: Varieties of an intra-regional relationship. VSJF (German Association for Social Science Research on Japan) International Conference, 2012 年 11 月 25 日, Akademie der Diözese, Rottenburg-Stuttgart, Germany.
- ② 石井剛、经的“精神”在哪里？：平冈武夫对章太炎的批判、“章太炎思想世界的新开掘”シンポジウム、2012 年 11 月 10 日、中国人民大学
- ③ 田原史起、“原子化”与“過疎化”：城郷関係の中日比較、第十五期“高原講壇”、華中師範大学中国農村研究院（中国武漢市）、2012 年 6 月 4 日、招待講演、中国語
- ④ 村田雄二郎、中国ナショナリズムにとってのモンゴル、第 3 回ウランバートル国際シンポジウム「日本・モンゴルの過去と現在——20 世紀を中心に」、2010 年 9 月 9 日、モンゴルウランバートル大学
- ⑤ Nakajima Takahiro（中島隆博）、Modern Enlightenment in China and Japan: Hu Shi and Fukuzawa Yukichi、The Harvard-Yenching Institute “Asia without Borders III” HYI Conference Series、2010 年 10 月 8 日-10 日、Yonsei University（韓国）
- ⑥ Nakajima Takahiro（中島隆博）、Asia' as a 'Relational' Concept from the Perspective of Japanese Marxist

Philosophers: Hiromatsu Wataru, Miki Kiyoshi, and Tosaka Jun, The Flying University of Transnational Humanities (FUTH) Summer School for Graduate Students and Young Scholars, 201年6月12日, Hanyang University, (韓国) .

- ⑦ 石井剛、「戴震の哲学」をいかに語るか：清末民初期の清代学術論と明末西学の暗流、17～19世紀東アジアにおける西学の受容と展開、2010年10月12日、東京大学.

[図書] (計5件)

- ① Ono Hideki, (小野秀樹), *Mermaid construction in Mandarin Chinese*, in Tasaku Tsunoda (ed.) *Adnominal Clauses and the 'Mermaid Construction': Grammaticalization of Nouns*, National Institute for Japanese Language and Linguistics, 2013, 677-681 (684)
- ② 伊藤徳也、「生活の芸術」と周作人—中国のデカダンス=モダニティ、勉誠出版、2012、総312
- ③ 田原史起、日本視野中的中国農村精英：関係、団結、三農政治、中国：山東人民出版社、2012、総247
- ④ 岡部達味・谷垣真理子、「同時代研究としての中国研究——岡部達味」平野健一郎・土田哲夫・村田雄二郎・石之瑜(編)『インタビュー戦後日本の中国研究』、平凡社、2011、129-176(総392)
- ⑤ 田島俊雄・朱蔭貴・加島潤、『中国水泥業的發展：産業組織与結構変化』、中国社会科学出版社、2011、総289

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

代田 智明 (SHIROTA TOMOHARU)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：60154382

### (2) 研究分担者

谷垣 真理子 (TANIGAKI MARIKO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：50227211

伊藤 徳也 (ITO NORIYA)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：10213068

石井 剛 (ISHII TSUYOSHI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：40409529

岩月 純一 (IWATSUKI JUNICHI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：80313162

田嶋 俊雄 (TAJIMA TOSHIO)  
東京大学・社会科学研究所・教授  
研究者番号：10171696

若林 正丈 (WAKABAYASHI MASAHIRO)  
早稲田大学・政治経済学術院・教授  
研究者番号：60114716

田原 史起 (TAHARA FUMIKI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：20308563

小野 秀樹 (ONO HIDEKI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：50248168

以下は2010年度のみ研究分担者

刈間 文俊 (KARIMA FUMITOSHI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：00161258  
(H22→H23：研究協力者)

村田 雄二郎 (MURATA YUJIRO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：70190923  
(H22→H23：研究協力者)

楊 凱榮 (YANG KAIRONG)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：00248543  
(H22→H23：研究協力者)

瀬地山 角 (SECHIYAMA KAKU)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：80250398  
(H22→H23：研究協力者)

中島 隆博 (NAKAJIMA TAKAHIRO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：20237267  
(H22→H23：研究協力者)

吉川 雅之 (YOSHIKAWA MASAYUKI)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：30313159  
(H22→H23：研究協力者)

(3)連携研究者  
特になし

(4)研究協力者

①国内

2012年度より

刈間 文俊 (KARIMA FUMITOSHI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：00161258  
(H22：研究分担者)

村田 雄二郎 (MURATA YUJIRO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：70190923  
(H22：研究分担者)

楊 凱栄 (YANG KAIRONG)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：00248543  
(H22：研究分担者)

瀬地山 角 (SECHIYAMA KAKU)  
東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：80250398  
(H22：研究分担者)

中島 隆博 (NAKAJIMA TAKAHIRO)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：20237267  
(H22：研究分担者)

吉川 雅之 (YOSHIKAWA MASAYUKI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  
研究者番号：30313159  
(H22：研究分担者)

以下、院生など

伊藤 博 (ITO HIROSHI)  
東京大学・大学院総合文化研究科・  
大学院生

中津 俊樹 (NAKATSU TOSHIKI)  
現代中国学会会員・仙台予備校教員

② 国外 (4名)

石之瑜 (SHIH CHI-YU)  
国立台湾大学・政治学系・教授

ラマール, クリステーション  
(Lamarre, Christine)

フランス社会科学高等研究院  
東亜語言研究所・教授

林 少陽 (Lin Shaoyang)  
香港城市大学・中文、翻訳及語言学系・  
副教授

邵軒磊 (SHAO HSUAN-LEI)  
台湾師範大学・東亜学系  
助理教授 (助教授)